

科目 現代の国語

授業時数 2 単位

履修学年 1 学年

目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、文章や会話において有効に使用し自らの意思を十分に伝えることができる。	的確な論理的思考、深く共感したり豊かに想像したりするを通してさまざまな文章をより深く読み取ることができる。また、他者との関わりにおいて確実な伝え合いができ、自分の思考を広げ深めて、表現できる。	言葉の価値を深く理解し、常に自主的にさまざまな分野の読書に臨み自己を向上させ、我が国の言語文化を継承しようとし、言葉を通して他者や社会に積極的に関わろうとする態度を身に付けている。
できる 活用Ⅰ	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に用いることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力によって文章をより深く読み取ることができる。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉の価値を理解し、自主的に読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。
わかる 習得	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	〔信念をもつ人〕 〔振り返りができる人〕	〔コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人〕 〔思いやりのある人〕	〔探究する人〕 〔広い視野を持つことができる人〕
評価方法	定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	出席状況 授業態度(教材準備、発問評価、積極性)

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書『精選現代の国語』東京書籍
- ・『新国語総合ガイド』京都書房
- ・『精選現代の国語 学習課題ノート』東京書籍

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・「知識及び技能」について、中学校における指導との系統性に注意し、「言語文化」の指導と関連を図り、特に常用漢字が正しく使えるよう計画的に指導し確実な定着を図る。
- ・「思考・判断・表現力」について、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの指導の関連を図り、生徒が自分の考えを深め的確に表現するために必要な能力の育成を目指す。
- ・「主体的に学習の取り組む態度」について、上記2項目を通して形成された考えについて整理し、文章をつくり、発表を行う機会を設け、自らに必要な学習についてを自覚し次の学びにつなげる。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	16	〈評論〉「届く言葉」 〈評論〉「水の東西」 〈評論〉「不思議な拍手」
	5月		
前期期末	6月	16	〈評論〉「ものと記号」 〈評論〉「言葉は世界を切り分ける」 〈評論〉「少女たちのヒロシマ」
	7月		
後期中間	8月	16	〈評論〉「共鳴し引き出される力」 〈評論〉「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」
	9月		
後期末	10月	22	〈評論〉「真の自立とは」 〈評論〉「自立と市場」 〈評論〉「白」
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		

科目 言語文化

授業時数 2 単位

履修学年 1 学年

目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、さまざまな意思伝達の場で活用できる。また、我が国の言語文化に対する理解を深め、自らが用いる言葉の世界に対する関わりを実感する。	的確な論理的思考、深く共感したり豊かに想像したりすることを通してさまざまな文章をより深く読み取ることができる。また、他者との関わりにおいて確実に伝え合いができ、自分の思考を広げ深めて、表現できる。	言葉の価値を深く理解し、常に自主的にさまざまな分野の読書に臨み自己を向上させ、我が国の言語文化を継承しようとし、言葉を通して他者や社会に積極的に関わろうとする態度を身に付けている。
できる 活用Ⅰ	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、他者との交流で活用するとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力によって文章をより深く読み取ることができる。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉の価値を理解し、自主的に読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。
わかる 習得	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人]	[思考できる人] [振り返りができる人]	[挑戦する人] [広い視野を持つことができる人]
評価方法	定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	出席状況 授業態度(教材準備、発問評価、積極性)

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書『精選言語文化』東京書籍
- ・『精選言語文化 学習課題ノート』東京書籍
- ・『体系古典文法学習ノート』数研出版
- ・『体系漢文学習ノート』数研出版
- ・『体系古典文法』数研出版
- ・『体系漢文』数研出版
- ・『理解を深める核心古文単語』尚文出版
- ・『新国語総合ガイド』京都書房

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・「知識及び技能」について、文語や訓読の決まりに関しては「読むこと」の指導に即して必要なもののみを扱い、古典の世界に親しむことを目指す。
- ・「思考・判断・表現」について、古文と漢文の割合が一方に偏らないようにし、読んで考えたことについて書いたり話し合ったり、古典に関するテーマを立ててまとめたりして、日本の言語文化への理解を深める。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」について、音読、朗読、暗唱を行うことにより、文章特有のリズムに自ら気付いたり、聞き手を意識した表現性の高い読み方をしたりすることで、文章の読みが深まることを目指す。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	〈古文〉説話「児のそら寝」(宇治拾遺物語) 〈古文〉説話「絵仏師良秀」(宇治拾遺物語) 〈漢文〉「訓読の基本」
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	16	〈古文〉「芥川」(伊勢物語) 〈小説〉「羅生門」 〈漢文〉「矛盾」(韓非子)
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	16	〈古文〉「東下り」(伊勢物語) 〈漢文〉「朝三暮四」(列子)
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	22	〈古文〉「ゆく河の流れ」(方丈記) 〈古文〉「今日はそのことをなさんと思へど」(徒然草) 〈漢文〉「春暁」孟浩然 〈小説〉「黄金風景」
	1月		
	2月		

科 目	歴史総合	授業時数	2 単位
		履修学年	1 学年
目 標	近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化という三つの軸を中心に歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準「育ちのプロセス」	使える 活用Ⅱ	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相対的な視野から捉え、身の回りの事象と世界の歴史がつながっていることを理解でき、考察し、自分の考えを表現できる。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れて構想できる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚を深める。
	できる 活用Ⅰ	諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べて、まとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、考察、構想したことを効果的に説明できる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養う。
	わかる 習得	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相対的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、考察、構想したことを基に議論できる力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及・解決し、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚を深める。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [振り返りができる人]	[思考できる人] [広い視野を持つことができる人]	[探究する人] [バランスのとれた人]	
評価方法	定期考査	定期考査(記述問題) 課題レポート	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(課題レポートの自主的な取り組みや記述表現)	

■何で学ぶか [教材]

・教科書「歴史総合」山川出版社 「総合 近代から現代へ ノート」山川出版社 史総合資料集」山川出版社	・ ・「歴
--	----------

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

科目の性格上、日本を中心とした世界の近現代の歴史について学習していきます。最初に史料(資料)にもとづいて歴史が叙述されていることを理解してもらい、史料(資料)の性格をふまえて批判的に読み取る力の育成を図ることが本授業のねらいです。 また、身近なテーマを取り上げ(例えば日本と洋菓子など)、身近な事柄が、時間的な推移や空間的な結びつきのなかで歴史と結びつきをもっていることを感じてもらうことも目指します。 史料(資料)を活用した通常の授業や定期考査の他に、夏季休業などを利用して身近なテーマに関する課題レポートの作成を行う予定です。
---

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	○結びつく世界 ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出
	5月 6月		○近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 2 アメリカ独立革命とフランス革命 3 19世紀前半のヨーロッパ 4 19世紀後半のヨーロッパ 5 19世紀のアメリカ大陸
前期 期末	7月	16	○近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 6 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 7 中国の開港と日本の開国
	8月 9月		○明治維新と日本の立憲制 1 明治維新と諸改革 2 明治初期の対外関係 3 自由民権運動と立憲体制
後期 中間	10月	16	○帝国主義の展開とアジア 1 条約改正と日清戦争 2 日本の産業革命と教育の普及 3 帝国主義と列強の対立 4 世界分割と列強の対立 5 日露戦争とその影響
	11月		
後期 期末	12月	22	○第一次世界大戦と大衆社会 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 国際平和と安全保障 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 4 大衆消費社会と市民生活の変容 5 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加
	1月 2月		

科 目	公共	授業時数	2 単位
		履修学年	1 学年
目 標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準「育ちのプロセス」	使える 活用Ⅱ	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身に付けている。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についてや、公共的な空間に生きる主権者としての自覚を深めている。
	できる 活用Ⅰ	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断する力を身に付けている。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚をもっている。
	わかる 習得	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的・多角的に考察できる。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養っている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [振り返りができる人]	[思考できる人] [信念を持つ人]	[広い視野を持つことができる人] [挑戦する人]	
評価方法	定期考査	定期考査(記述問題) 課題レポート	授業やグループワークに臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(課題レポートの主体的な取り組みや記述表現)	

■何で学ぶか [教材]

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「公共」実教出版</li> <li>・「フォーラム公共2023」東京法令出版</li> <li>公共研究ノート」啓隆社</li> </ul>	・「新
---	-----

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

<p>(1)社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的事象等の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、現実社会に見られる課題などについて、考察したことや構想したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視する。</p> <p>(2)諸資料から、社会的事象等に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、具体的な体験を伴う学習の充実を図るようにする。その際、現代の諸課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想するに当たっては、関連する各種の統計、年鑑、白書、新聞、読み物、地図その他の資料の出典などを確認し、その信頼性を踏まえつつ適切に活用したり、考察、構想の過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにする。</p>
---

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	第1部 公共の扉 <b>【倫理】</b> 1 社会を作る私たち 2 人間としてよく生きる 3 他者とともに生きる 4 民主社会の倫理
	5月		
前期 期末	7月	16	<b>【政治】</b> 5 民主国家における基本原理 第2部 よりよい社会形成に参加する私たち 1 日本国憲法の基本的性格 (1)日本国憲法の成立 (2)日本国憲法の基本的性格 (3)自由に生きる権利 (4)平等に生きる権利 (5)社会権と参政権・請求権 (6)新しい権利 (7)人権の広がり と 公共の福祉 (8)平和主義とわが国の安全 (9)こんにちの防衛問題
	9月		
後期 中間	10月	16	2 日本の政治機構と政治参加 (1)政治機構と国会 (2)行政権と行政機能の拡大 (3)公正な裁判の保障 (4)地方自治と住民福祉 (5)政党政治 (6)選挙制度 (7)世論と政治参加
	11月		
後期 期末	12月	22	<b>【経済】</b> 1 現代の経済社会 2 日本経済の特質と国民生活  <b>【国際】</b> 1 国際政治の動向と課題 2 国際経済の動向と課題
	2月		



科目 **数学 I**

授業時数

3 単位

履修学年

1 学年

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用 II	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解した上で、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析の知識・技能を用いて社会の事象などから設定した問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
できる 活用 I	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解した上で、事象を数学化することができる。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について、考察・分析した結果に必要な数学用語や表・グラフを用いて、適格に記述することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。
わかる 習得	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	数や式を適切に変形し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現し、関数において特徴を表・式・グラフを相互に関連付けて考察することができる。また、与えられたデータを適切な手法を選択して分析を行うことができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	小テスト 定期考査(基本的知識・技能) 授業内テスト	定期考査(記述) 授業内テスト	授業に臨む姿勢 「課題学習」への取り組み

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「深進数学 I」啓林館
- ・問題集「深進準拠問題集 演習思考編Grasp 数学 I + A」啓林館
- ・問題集「問題集ノートCue標準～応用編 数学 I」啓林館
- ・参考書「Focus Gold Smart 数学 I + A」啓林館

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・各内容について、中学校数学との関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識及び技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・各単元の「探究編」で課題学習に取り組むことにより学習したことをさらに深く探究し、グループワークなどを取り入れながら「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	40	1章 数と式 1節 多項式 (1 多項式とその加法, 減法 2 多項式の乗法 3 因数分解) 2節 実数 (1 実数 2 根号を含む式の計算) 探究編 探究1 (課題学習) 3節 1次不等式 (1 不等式の基本性質 2 不等式とその解 3 絶対値を含む方程式・不等式) 探究編 探究2 (課題学習)
	5月		2章 2次関数 1節 関数とグラフ (1 関数 2 2次関数のグラフ 3 2次関数の決定) 探究編 探究3, 探究4 (課題学習) 2節 2次関数の最大・最小 (1 2次関数の最大・最小 2 最大・最小の応用) 探究編 探究5 (課題学習)
前期 期末	7月	45	3節 2次関数と方程式・不等式 (1 2次方程式 2 2次関数のグラフと x 軸の共有点 3 2次不等式とその解) 探究編 探究6, 探究7 (課題学習)
	8月		3章 集合と命題 1節 集合と命題 (1 集合 2 命題と集合 3 逆・裏・対偶) 探究編 探究8 (課題学習)
後期 中間	9月	20	4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 (1 直角三角形を用いた三角比の定義 2 三角比の相互関係) 2節 三角比の拡張 (1 半円と座標を用いた三角比の定義 2 三角比の相互関係) 3節 正弦定理と余弦定理 (1 正弦定理 2 余弦定理) 探究編 探究9 (課題学習)
	10月		4節 図形の計量 (1 図形の面積 2 図形の計量) 探究編 探究10, 探究11 (課題学習)
後期 期末	11月		5章 データの分析 1節 データの整理と分析 (1 度数分布表とヒストグラム 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関と散布図 6 相関係数 7 相関と因果関係 9 仮説検定の考え方) 探究編 探究12 (課題学習) 2節 統計的探究プロセス 探究編 探究13 (課題学習)
	12月		
	1月		
	2月		

科目 **数学A**

授業時数 2 単位

履修学年 1 学年

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解した上で、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力が身に付いており、数理的に考察し記述することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
できる 活用Ⅰ	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解した上で、事象を数学化したり、数学的に解釈したりすることができる。	図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。
わかる 習得	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することができる。	図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だす力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	小テスト 定期考査(基本的知識・技能) 授業内テスト	定期考査(記述) 授業内テスト	授業に臨む姿勢 「課題学習」への取り組み

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「深進数学A」啓林館
- ・問題集「深進準拠問題集 演習思考編Grasp 数学 I + A」啓林館
- ・問題集「問題集ノートCue標準～応用編 数学A」啓林館
- ・参考書「Focus Gold Smart 数学 I + A」啓林館

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・各内容について、中学校数学との関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識及び技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・各単元の「探究編」で課題学習に取り組むことにより学習したことをさらに深く探究し、グループワークなどを取り入れながら「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月		
	5月		
	6月		
前期期末	7月		
	8月		
	9月		
後期中間	10月		
	11月	25	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 (1 集合と要素の個数 2 場合の数 3 和の法則 4 積の法則) 探究編 探究1 (課題学習) 2節 順列・組合せ (1 順列 2 いろいろな順列 3 組合せ 4 同じものを含む順列) 探究編 探究2, 探究3 (課題学習) 3節 確率とその基本性質 (1 事象と確率 2 確率の基本性質) 探究編 探究4 (課題学習)
	12月	45	4節 いろいろな確率 (1 独立な試行 2 反復試行 3 条件付き確率) 探究編 探究5, 探究6, 探究7 (課題学習) 5節 期待値 (1 期待値) 2章 図形の性質 1節 三角形との性質 (1 直線と角 2 三角形の重心・外心・内心 3 チェバの定理とメネラウスの定理 4 三角形の成立条件) 探究編 探究8 (課題学習) 2節 円の性質 (1 円周角の定理とその逆 2 円に内接・外接する四角形 3 接線と弦のなす角 4 方べきの定理 3 2つの円位置関係) 3節 作図 (1 作図) 探究編 探究9 (課題学習) 4節 空間図形 (1 空間における平面・直線の位置関係 2 多面体) 探究編 探究10, 探究11 (課題学習)
後期末	2月		

科目 化学基礎

授業時数 2 単位

履修学年 1 学年

目標 物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	日常生活や社会と関連した、物質とその変化についての基礎的な知識を駆使して、複雑な事象を理解することができる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に着けている。	複雑な事象について観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、考えを論理的に表現することができる。	物質とその変化について主体的に関わり、身のまわりの複雑な事象の原理を考えたり、自らの考えを他者と伝えあうことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
できる 活用Ⅰ	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、その知識を活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、論理的に考察することができる。	物質とその変化について主体的に関わり、自らの考えを他者と伝えあうことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
わかる 習得	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	物質とその変化について主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(考察記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか [教材]

センサー(啓林館) i版化学基礎(啓林館)
--------------------------

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。 学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりします。
---

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月 5月 6月	16	(1) 化学と人間生活 (ア) 化学と物質 ア 化学の特徴 イ 物質の分離・精製 ウ 単体と化合物 エ 熱運動と物質の三態 (2) 物質の構成 (ア) 物質の構成粒子 ア 原子の構造 イ 電子配置と周期表
	7月 8月 9月	16	(イ) 物質と化学結合 ア イオンとイオン結合 イ 分子と共有結合 ウ 金属と金属結合
	10月 11月	16	(3) 物質の変化とその利用 (ア) 物質と化学反応式 ア 物質 イ 化学反応式
後期 期末	12月 1月 2月	22	(イ) 化学反応 ア 酸・塩基と中和 イ 酸化と還元 (ウ) 化学が拓く世界 ア 化学が拓く世界

科目 **生物基礎**

授業時数

2 単位

履修学年

1 学年

目標 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

## ■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	問題解決の為の観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、検証、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書の作成、発表を通して科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、課題の解決や科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとする態度が養われている。
できる 活用Ⅰ	生物や生物現象についての基礎的な知識を身に付け活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	課題解決の為の観察や実験等を計画、実行でき、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく分析、記述することができる。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、課題の解決や科学的に探究しようすることができる。また、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようと思えることができる。
わかる 習得	生物や生物現象についての基本を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な事が行える。	観察、実験などを通して科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようと思えることができる。
風越高校の目指す学習者像	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識のある人</li> <li>広い視野を持つことができる人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考できる人</li> <li>振り返りができる人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究する人</li> <li>思いやりのある人</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>実験レポート(基本知識・技能)</li> <li>課題確認テスト(小テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>実験レポート(記述)</li> <li>課題確認テスト(小テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に臨む姿勢や意欲</li> <li>実験レポート(態度・記述)</li> <li>パフォーマンス評価</li> </ul>

## ■何で学ぶか [教材]

- 教科書:『生物基礎 BIOLOGY』 / 実教出版
- 準拠ノート:『生物基礎 エブリノート 授業のまとめ』 新課程版 / 実教出版
- 問題集:『ニューステップアップ 生物基礎』 / 東京書籍
- 図説:『スクエア最新図説生物』 新課程 / 第一学習社

## ■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

・教科書、準拠ノートを活用して生物に関する基礎的な知識を体系的に学び、問題集を利用してその知識の定着を図る。  
 ・科学的に探究する姿勢を養うために、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの方法を習得する。  
 ・授業やレポートの作成・発表を通して生物や生物現象についての理解を深め、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養っていく。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	15	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 細胞とエネルギー
	5月 6月		
前期期末	7月	20	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報とタンパク質の合成
	8月 9月		
後期中間	10月	20	第3章 ヒトのからだの調節 第1節 体内環境 第2節 体内環境の維持のしくみ 第3節 免疫
	11月		
後期期末	12月	15	第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生とその成り立ち 第2節 植生とバイオーム 第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全
	1月 2月		



科目 **保健**

授業時数 1 単位  
履修学年 1 学年

目標 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質能力を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	個人及び社会生活における健康・安全について基礎的な知識を駆使して様々な状況に応じて活用できる。また、自他の健康の保持増進のための必要なことを合理的、計画的に実践することができる。	健康について自他や社会の課題を一人だけでなく他者と共に把握することができ、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に様々な方法で適確に伝える力を身につけている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりのための方策を様々な視点から目指そうとし、状況に応じて適確に実践しようとしており、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を十分に身につけている。
できる 活用Ⅰ	個人及び社会生活における健康・安全について基礎的なことを理解し、活用できる。また、自他の健康の保持増進のために必要なことを実践することができる。	健康について自他や社会の課題を一人だけでなく他者と共に把握することができ、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて様々な方法で他者に伝える力を身につけている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりのための方策を様々な視点から目指そうとしており、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけている。
わかる 習得	個人及び社会生活における健康・安全についての基本を理解し、実践できる。	健康について自他や社会の課題を自ら発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身につけている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人] [バランスのとれた人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人] [振り返りができる人]	[探究する人] [思いやりのある人] [挑戦する人] [信念をもつ人]
評価方法	定期考査 保健ノート・学習カード	定期考査 保健ノート・学習カード 発言や活動の様子	授業に取り組む姿勢や意欲 保健ノート・学習カード・レポート等への取り組みや記述

■何で学ぶか [教材]

大修館書店 現代高等保健体育・同ノート

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

健康に関する知識と理解を深め、生涯にわたって健康の保持増進を実現できる資質・能力の育成を目指す。ノートや学習カードやレポート等の記述内容や取り組みの様子など、保健の授業における取り組みを総合的に評価する。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	9	【現代社会と健康】 (ア) 健康の考え方 (イ) 現代の感染症とその予防
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	9	【現代社会と健康】 (ウ) 生活習慣病などの予防と回復 (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	9	【現代社会と健康】 (オ) 精神疾患の予防と回復
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	8	【安全な社会生活】 (イ) 応急手当
	1月		
	2月		

科目 **体育**

授業時数 **2 単位**

履修学年 **1 学年**

目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能をあらゆる状況において発揮でき、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけて適確に説明できる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を一人だけでなく他者と合意形成しながら発見することができ、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたこと様々な方法で適確に他者に伝えることができる。	公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がすべて身につけており、健康・安全を確保して、状況に応じて生涯にわたって継続して運動に親しむ態度が十分に身につけている。
できる 活用Ⅰ	運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能を特定の状況において発揮でき、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけて説明できる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を一人だけでなく他者と発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを様々な方法で他者に伝えることができる。	公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がほぼ身につけており、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけている。
わかる 習得	運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能や、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている。	公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がいくつか身につけており、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人] [バランスのとれた人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人] [振り返りができる人]	[探究する人] [思いやりのある人] [挑戦する人] [信念をもつ人]
評価方法	ゲーム等における実技レベル 学習カードやレポートの記述内容	学習カードやレポートの記述内容 発言や活動の様子	授業に取り組む姿勢や意欲 学習カードやレポートへの取り組みや記述

■何で学ぶか [教材]

--

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

運動・スポーツに対する知識・技能の向上に加えて、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の向上も図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことができる資質・能力の育成を目指す。よって、学習カードやレポート等の記述内容や取り組みの様子など、体育の授業における取り組みを総合的に評価する。



■いつ、何を学ぶか [学習内容]

	時数	学習内容
前期中間 4月 5月 6月	6	A 体づくり運動
	13	E 球技
前期期末 7月 8月 9月	7	B 器械運動 D 水泳 G ダンス
	4	C 陸上競技
	6	H 体育理論
後期中間 10月 11月	14	E 球技
	20	E 球技
後期末 12月 1月 2月		

科目 音楽Ⅰ

授業時数

2 単位

履修学年

1 学年

目標 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を身につけます。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができますようにします。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにします。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育み、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていこうとする態度を養います。
できる 活用Ⅰ	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解し、意図に応じて表現方法を工夫し、表すことができますようにします。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにします。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育み、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていこうとする態度を養います。
わかる 習得	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けます。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにします。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育み、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていこうとする態度を養います。
風越高校の目指す学習者像	知識のある人 技術を持ち人	思考できる人、信念をもつ人 広い視野を持つことができる人 バランスのとれた人 振り返りができる人	探究する人 コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人 思いやりのある人、挑戦する人
評価方法	提出物(单元ごとのワークシート) 実技検定(歌唱・器楽等)	提出物(单元ごとのワークシート) 実技検定(歌唱・器楽等)	单元ごとのワークシートによる振り返り 実技検定における自己評価

■何で学ぶか [教材]

教科書「MOUSA1」(教育芸術社)  
授業者作成の補助プリント

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

歌唱・器楽表現・創作に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに歌唱表現を創意工夫する鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽のよさや美しさを深く味わって聴く

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	20	<input type="checkbox"/> 世界の諸民族の音楽(ケチャ)【鑑賞・創作】(4時間) ♪お茶ケチャ <input type="checkbox"/> キーボードアンサンブル【器楽】(8時間) ♪ぐるぐるピアノ <input type="checkbox"/> ソルフージュ(音符の計算)【理論】(8時間)
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	15	<input checked="" type="checkbox"/> ボディパーカッション【創作】(3時間) ♪YOU CAN DO IT <input checked="" type="checkbox"/> 日本の歌を歌おう【歌唱】(4時間) ♪夏の思い出 <input type="checkbox"/> イタリア語の歌を歌おう【歌唱】(8時間) ♪caro mio ben
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	15	<input type="checkbox"/> イタリア語の歌を歌おう(続き)【歌唱】(2時間) ♪caro mio ben <input type="checkbox"/> ヴァイオリンで演奏しよう(13時間) ♪きらきら星 ♪喜びの歌
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	20	<input type="checkbox"/> ミュージカルの表現の特徴を感じ取ろう【鑑賞】(6時間) ♪「サウンドオブミュージック」 <input type="checkbox"/> カップスでアンサンブル(14時間) (♪グループで楽曲選択)
	1月		
	2月		





科目 **美術 1**

授業時数

2 単位

履修学年

1 学年

目標 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	・造形的なよさや美しさ、表現意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
できる 活用Ⅰ	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解し、意図に応じて表現方法を工夫し、表すことができる。	・造形的なよさや美しさ、表現意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方を感じ取ることができる。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
わかる 習得	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解しようとし、意図に応じて表現方法を選んで表すことができる。	・造形的なよさや美しさ、表現意図と工夫、美術の働きなどについて知り、主題を生成し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方を理解することができる。	・進んで美術の幅広い創造活動に取り組み、美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術に親しみ、生活に生かそうとする。
風越高校の目指す学習者像	思考できる人 知識のある人	広い視野を持つことができる 探究する人	信念をもつ人 振り返りができる人
評価方法	作品、学習カードの記述、鑑賞会の発言	制作過程、作品、学習カードの記述	制作過程、作品、学習カードの記述

■何で学ぶか [教材]

教科書 高校生の美術1(日本文教出版)

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

・表現力～心と体を向けて話を聞く、伝わる話し方。感じ方を具体的に記述する。表現は作品だけではない。  
 ・授業の開始・・・準備して着席。終了・・・チャイム前には教室を出ない。  
 ・準備、片付け・・・協力して全体が早くきちんとできる。  
 ・作品を期限までに仕上げ、提出すること。・必要な資料、材料等の準備は積極的に行うこと。・授業後の片づけ、物品の管理はきちんとすること。・鑑賞時等には自分の考え方や感じ方を積極的に述べるよう努めること。・幅広く美術に関心を持ち、感性を働かせて、美しく創造的な表現や材料・用具を生かす工夫、技能の向上、自然や人間、文化などの理解等に努め、積極的・意欲的に美術の活動に取り組んで下さい。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・「絵画の基礎・デッサンとトーン」</li> <li>・「植物の生命を感じて表す」(絵画)</li> </ul>
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「オリジナル文様」(デザイン)</li> </ul>
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>「私の宝箱」(工芸)</li> </ul>
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本や世界の美術」(鑑賞)</li> <li>・まとめ</li> </ul>
	1月		
	2月		

科目 書道 I

授業時数

2 単位

履修学年

1 学年

目標 書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>書の実現の方法や形式、書表現の多様性を幅広く理解している。</li> <li>書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。</li> </ul>	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。</p>	<p>積極的に書の伝統と文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の幅広い創作活動に取り組んでいる。</p>
できる 活用Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>書の実現の方法や形式、書表現の多様性について理解している。</li> <li>書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。</li> </ul>	<p>書のよさや美しさを感じ、個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えたりしている。</p>	<p>書の伝統と文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組んでいる。</p>
わかる 習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>書の実現の方法や形式、書表現の多様性について理解しようとしている。</li> <li>書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現しようとしている。</li> </ul>	<p>書のよさや美しさを感じ、個性豊かに表現を工夫しようしたり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えようしたりしている。</p>	<p>書の伝統と文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしたりしている。</p>
風越高校の目指す学習者像	<p>探究する人 知識のある人</p>	<p>思考できる人 コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人</p>	<p>挑戦する人 振り返りができる人</p>
評価方法	<p>ワークシート(知識の活用) 作品制作(作品)</p>	<p>作品制作(構想・工夫) 鑑賞シート(自己評価・相互批評)</p>	<p>作品制作(取り組む態度) 行動観察(姿勢・意識)</p>

■何で学ぶか [教材]

<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書「書 I」光村図書</li> <li>「新版 応用ペン習字」教育図書</li> </ul>
---

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

<p>・社会生活を円滑に営む上で必要なコミュニケーション力の基となる「文字」の知識・技術を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、積極的に授業へ取り組んでください。</p> <p>・幅広い活動に取り組むために、作品鑑賞や歴史、用具用材についても学び、作品制作においては、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「篆刻・刻字」の分野を学びます。</p> <p>・「芸術科書道」は、きれいな字を書く「書写」と違い、表現力を磨いたり鑑賞力を養ったりします。上手に書こうとするよりも、積極的に学ぼうとすることや楽しむことが大切です。</p>
--

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

	時数	学習内容
前期中間 4月 5月 6月	20	(1) 漢字仮名交じりの書 ・書写から書道へ(創作)  (2) 楷書 唐の四大家 ・孔子廟堂碑 ・九成宮禮泉銘 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑
前期期末 7月 8月 9月	15	(3) 篆刻 姓名印
後期中間 10月 11月	20	(4) 行書 ・蘭亭序 ・風信帖 ・蜀素帖
後期末 12月 1月 2月	15	(5) 書き初め(臨書)  (6) 仮名 ・蓬萊切 ・高野切第三種 ・関戸本古今和歌集 ・元永本古今和歌集 ・散らし書き(創作)

科目 **総合英語 I ① (英語コミュニケーション)**

授業時数

3 単位

履修学年

1 学年

目標 日常的な話題および社会的な話題を取り扱う中で、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的话题および社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、自分から他人に働きかけ、より良い意見や環境を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。
できる 活用Ⅰ	日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、他人と協力してより良い意見を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。
わかる 習得	日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりしようと試みることができる。	日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れたりと、他人と協力してより良い意見を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト)	定期考査 エッセイライティング プレゼンテーション ディベート	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「New Rays English Communication I」いっぴいな書店
- ・「New Rays English Communication I 学習ノート」いっぴいな書店
- ・サイドリーダー

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

(1) 中学校におけるコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための総合的な指導を踏まえ、様々な題材を扱う教科書や付属資料を用いて、英語を読むこと、聞くこと、話すこと(発表・やりとり)、書くことの活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、英語の知識理解、思考判断表現、主体的に学習に取り組む態度を育成します。

(2) 教科書を読むだけでなく、教科書で話されていることについて英語で自分の考えを表現したり、英語でやり取りをすることもあります。自分の考えを表現するためには、高校で習うことは、もちろん中学校で習ってきた語彙や文法が必要になります。そのため、中学の語彙や文法を復習する時間も取りながら進めていきます。



■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	27	Chapter1 The Future is Yours (Chapter2 The Power of Design) Chapter3 Plastic Is Everywhere
	5月		
	6月		
前期期末	7月	27	Chapter4 OriHime – A Vehicle of Your Heart Chapter5 Satoko and Nada
	8月		
	9月		
後期中間	10月	26	Chapter6 The Voice of Children Chapter7 Human Habitation on Mars
	11月		
	12月		
後期期末	1月	25	Chapter8 A Loving Story (Chapter9 Edo, the Resilient City) Chapter10 A Quality Education for All
	2月		
	3月		

科目 論理・表現I

授業時数 2 単位

履修学年 1 学年

目標 中学校などにおけるコミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、三つの領域別の言語活動および、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと」「書くこと」を中心とした発信能力を育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、正確に理解し、情報や考え気持などをより相手に伝わるように表現するための語句、文法や論理表現を身につけることができる。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い方向へと議論を導き出すことができる。
できる 活用Ⅰ	日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけている。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い意見を作り出すことができる。
わかる 習得	日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけようとする。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い意見にたどり着こうとしている。
風越高校の目指す学習者像	〔探究する人〕 〔知識のある人〕 〔広い視野を持つことができる人〕	〔思考できる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕	〔探究する人〕 〔挑戦する人〕 〔振り返りができる人〕
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト)	定期考査 エッセイライティング プレゼンテーション ディベート	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか【教材】

- ・教科書「EARTHRISE English Logic and Expression I」数研出版
- ・「EARTHRISE English Logic and Expression I レッスンブック Grammar in 24 Lessons」数研出版
- ・「EARTHRISE English Logic and Expression I 活用ノート」数研出版

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

- ・中学校における、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、教科書や付属教材の問題を通して、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図ります。
- ・教科書を読むだけでなく、教科書で話されていることについて英語で自分の考えを表現(プレゼンテーション)したり、英語でやり取り(ディスカッション・ディベート)をすることもあります。自分の考えを表現するためには、高校で習うことは、もちろん中学校で習ってきた語彙や文法が必要になります。そのため、中学の語彙や文法を復習する時間も取りながら進めていきます。





■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	Lesson1 Introduce yourself to your class Lesson2 How do you spend your weekends? Lesson3 Where did you go on vacation?
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	16	Lesson4 How can I get there? Lesson5 Would you like to come with me? Lesson6 Something really Japanese Lesson7 Do you do any volunteer activities?
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	16	Lesson8 Let's enjoy school life! Lesson9 Are you eco-friendly? Lesson10 What sports do you like? Lesson11 That's new to me!
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	22	Lesson12 Which nobel Prize winner do you admire most? Lesson13 I'm interested in history Lesson14 Various countries around the world Lesson15 What job are you interested in?
	1月		
	2月		

科目 **家庭基礎**

授業時数 2 単位

履修学年 1 学年

目標 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義や社会との関わりについて理解し、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて深く理解しているとともに、それらにかかわる高度な技能を身につけている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践したことを、具体的に表現する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や、家庭・地域の生活を創造し実践しようとしている。
できる 活用Ⅰ	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義や社会との関わりについて理解し、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想したことを具体的に表現する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や、家庭・地域の生活を創造し、実践しようとしている。
わかる 習得	人の一生、家族・家庭の意義や社会との関わりについて理解し、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる基本的な技能を身につけている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして、課題を設定したことを表現する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に取り組んだり、振り返って改善しようとしている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [探求する人]	[思考できる人] [広い視野を持つことができる人] [バランスのとれた人] [振り返りができる人]	[コミュニケーションできる人] [思いやりのある人] [挑戦する人]
評価方法	定期考査 実習・体験レポート 作品	定期考査 実習・体験レポート	授業に臨む姿勢や意欲 ワークシートの記入・提出状況

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「家基706Agenda家庭基礎」実教出版
- ・教材「家基706Agenda家庭基礎準拠学習ノート」実教出版
- ・資料集「2023生活学Navi 資料+成分表」実教出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・生涯を見通し主体的に生活するために必要な知識・技術を、講義や実践的・体験的な活動を通して学びます。実践や体験の後にはレポートを作成し、自己の学習を振り返ります。
- ・現在を起点に将来を見通したり、自己や家族を起点に地域や社会へ視野を広げる力を養います。
- ・生活の中から問題を見いだしその課題を解決する過程を重視します。
- ・様々な立場の人の意見を聞いたり、周りの人との協働を通して学びを深めましょう。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1)生涯の生活設計 (2)青年期の自立と家庭・家族 (3)子どもの生活と保育
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	16	(4)高齢期の生活と福祉 (5)共生社会と福祉  B 衣食住の生活の自立と設計 (1)食生活と健康
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	16	(2)衣生活と健康 (3)住生活と住環境
	11月		
後期 期末	12月	22	C.持続可能な消費生活・環境 (1)生活における経済の計画 (2)消費行動と意思決定 (3)持続可能なライフスタイルと環境  D.ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動
	1月		
	2月		

目標 課題や目的に応じて情報手段を適切に活用するため、必要な情報を主体的に収集・表現・処理・創造し、それを受けての状況などを踏まえて、発信・伝達できる能力を養う

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	オフィスのアプリケーションの特徴を理解し適切なアプリケーションを自ら選択肢し、資料の作成を作成することができた。	問題解決のため、自ら問題をみつけ解決する力を身につけることができた。また、その問題に対する解決策を見出し、具体的に表現する力を身につけた。	さまざまな人々と協働し、よりよい問題解決に向けて、主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、よりよい方法を見つけ出す姿が見られた。
できる 活用Ⅰ	オフィスのアプリケーションを用いて見本通り作成することはもちろん、自らの考えをより伝えやすいように工夫することができる。	問題解決のため、自ら問題を見つけ解決する力を身につけた。また、その問題に対する解決策をアプリケーションなどを用いてまとめることができた	さまざまな人々と協働し、よりよい問題解決に向けて、主体的に取り組んだり、振り返って改善したりする姿が見られた。
わかる 習得	オフィスのアプリケーションなどについて、見本通りに作成することができた。	自ら問題を見つけ問題解決のため、情報を集め問題解決することができた。	さまざまな人々と協働し、問題解決に向けて、活動する姿が見られた。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [探究する人]	[コミュニケーションできる人] [広い視野を持つことのできる人]	[振り返りのできる人] [思いやりのある人]
評価方法	定期考査 作品 実技テスト	定期考査 作品 発表 実技テスト	授業に取り組む姿 発表 パフォーマンステスト 実技テスト

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「情報 I」日本文教出版
- ・「最新情報 I」日本文教出版
- ・「30時間でマスター offiice2019」実教出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・オフィスのアプリケーションのについて実際にアプリに触れながら操作方法について学んでいきます。
- ・プログラミングはhtmlを用いて実際にHPを作成し自分の考えていることを他人にどのように伝えるか考えていきます。
- ・探究学習を通して、自らの考えをプレゼンする力を養います。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	タイピング Wordの使い方 パワーポイントを用いて文化祭のポスター作り
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	18	タイピング エクセルの使い方 パワーポイントの使い方
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	18	タイピング プログラム(HTML、CSS、JavaScript)
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	18	探究学習 教科書の内容
	1月		
	2月		

科目 総合英語 I ② (ディベート・ディスカッション)

授業時数

2 単位

履修学年

1 学年

目標

複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、賛成又は反対の立場をとった上で、論理的に一貫性のある議論をすることができることや、他者の意見などに配慮しながら自分自身の意見や主張などを詳しく話して伝え合うことができるようにする

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	様々な題材を取り扱う議論や討論において、題材についての知識はもちろん、相手の言っていることを理解したり、自分の考えを表現するための語彙力や文法力を習得し、活用できる。	様々な題材を取り扱う議論や討論をにおいて、批判的な思考力、情報を収集したり分析したりする能力、論理的な思考力、表現力を用いて生き生きと活動している。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようとしていたり、他者と協力してより良い方向へと議論を導き出すことができる。
できる 活用Ⅰ	様々な題材を取り扱う議論や討論において、題材についての知識はもちろん、相手の言っていることを理解したり、自分の考えを表現するための語彙力や文法力を獲得しつつある。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、批判的な思考力、情報を収集したり分析したりする能力、論理的な思考力、表現力をおおむね身につけている。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようとしていたり、他者と協力してより良い意見を作り出すことができる。
わかる 習得	様々な題材を取り扱う議論や討論において、題材についての知識はもちろん、相手の言っていることを理解したり、自分の考えを表現するための語彙力や文法力を獲得しようとしている。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、批判的な思考力、情報を収集したり分析したりする能力、論理的な思考力、表現力を身につけようとしている。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようとしていたり、他者と協力してより良い意見にたどり着こうとしている。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [挑戦する人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [振り返りができる人]
評価方法	エッセイライティング 各小テスト	定期考査(インタビューテスト) エッセイライティング プレゼンテーション ディベート	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションやディスカッション中の自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか [教材]

- ・授業時に配布のワークシート
- ・タブレットPC

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

・ALT中心に、世界の文化や暮らしについて学びます。世界を知るためにはまず自分のことも知らなければいけないので、自分たちの歴史や文化にも触れたり、それらを他人に紹介する活動などを行いながら授業を進めていきます。世界の文化や暮らしについて学ぶ中で、学んだことを発表(プレゼンテーション)したり、情報や自分自身の考えを適切な理由や根拠とともに詳しく話して伝えたり、他者の意見に適切に応じたりする活動(ディスカッション)したり、一つの意見に対して、賛成又は反対の立場を取ったうえで、論理的に一貫性のある議論を転嫁する活動(ディベート)をしたりします。また、議論した内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動をしします。





■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	Names - learn about name culture and the explaining Japanese names in English. Different lifestyles around the world - make short group presentations JICA research - group presentation and essay JICA continue End of term speech Interview test
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	16	Idioms - short group research. Teach the class Debate - in groups students research and have debate Continue with debate UN project - understand what the UN is.
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	16	UN project - have mock UN meeting. Japanese Culture speech
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	22	Interview test My hometown - group research about local hometown Hometown Presentations Interviews
	1月		
	2月		